

教育実習を終えて

[府立 K 高等学校 英語] 氏名：T. M

教育実習は 2 週間、母校の K 高校に行かせていただいた。担当したのは 1 年生の教科書 Reading の授業 4 クラスと文法授業 1 クラスで、そのうちの 1 クラスが担任のクラスだった。まず初日は同じ時期に教育実習をする人たちと挨拶をして、校長先生と教頭先生からお話を聞いた。そこでおっしゃられたのは、「K 高校は特殊な高校なので、ほかの学校でも同じとは考えないように」ということだった。それは K 高校に限らず全ての学校がそれぞれ方針にしていることが違うので、常に意識しておくことは大切だと思った。今まで学校という場に教師として立ち入ったことがなかったので、すれ違う生徒に挨拶をされるたびに感動した。自分が生徒だったときも同じことをやっていたと思うが、改めて挨拶は大事だと感じたので、実習中はすれ違う先生や生徒へ笑顔で大きな声で挨拶するよう常に心がけた。2 週間という期間にしては色々な行事があり、1 週目の土曜日は 1 年生のお試し考査で試験監督をし、2 週目に朝の挨拶運動や PTA の授業参観や球技大会があり充実した実習であった。私が生徒として授業を受けていた頃とは違う点は、各教室にプロジェクターが設置されており、英語の授業では教科書の電子版をプロジェクターに写して使用しているというところで、積極的に教育の ICT 化が進んでいると感じた。1 週目は担当の先生の授業を中心に見学し、具体的な授業の進め方や時間配分などを学んだ。放課後にはクラブや自治会（生徒会）の見学もした。生徒が下校時刻までの限られた時間で勉強以外のことに集中して取り組んでいる姿はすごく素敵だと思った。2 週目は先生が担当しているクラスの全授業を実際に私が行った。学年全体で配布するプリントは統一されているので、そのプリントも利用しながら授業を構成した。1 番初めの授業は、準備は念入りに行っていたけれど生徒の反応が不安だったのでとても緊張していた。生徒は担当の先生の授業と同じように私の授業にも参加してくれたのでほっとした。授業は基本的にオールイングリッシュで行ったが、初めの方はやはり日本語での説明に頼ってしまいがちだった。担当の先生は Team・Teaching の形式の授業のとき、ALT に授業を主導させていたが、いい機会なので私が主導し、T・T をしてみようということになり、他学年で Team・Teaching をしている授業を見学に行き、ALT にも協力していただいて、何度か打ち合わせしたあと Team・Teaching を行った。本文のロールプレイを一緒にしたり、アクティビティの指示を交互に行ったりととてもいい経験になった。生徒の反応も良く、最後に書いてもらった感想でも好評だったので嬉しかった。クラスによって同じ指導案で授業していても進度が違ってくるので、それぞれのクラスがどこまで進んだのか把握しておくことが必要だった。授業の進度がはやいクラスでは私が本文に関する問題をクイズ形式に出題して、チーム対抗戦で競わせたところ、予想以上に盛り上がり驚いた。生徒からの評判は良かったが、私自身ゲームのルールについて反省しなければいけない点が多かった。ロングホームルームでは生徒を中心に文化祭の出し物や体育祭のテーマを決めていて、さすが高校生だと思った。素早く全

体を仕切る学級委員長やアイデアを見やすく黒板にまとめる庶務系の活躍もあり、たくさん生徒が意見を出し、クラスの雰囲気はとてもよかった。見ているとつい、こちらも提案したくなるが、生徒自身で決めることが大事だと思ったので我慢した。2週目の木曜日の午後は球技大会で1年の競技はドッジボール、私は担任クラスと担当しているクラスを応援した。普段は授業中の様子しか見られないので、スポーツにも真剣に取り組んでいる姿はカッコよく見えた。担任クラスが男女とも優勝して、すごく感動した。天気も良かったので決勝戦までグラウンドですっと応援するのは体力が必要だったが、生徒にとっても私にとっても良い思い出になったので本当に良かった。研究授業は数人の先生に見えていただいて、授業後フィードバックをもらいにいった。クラスの中での理解のバラつきに対するフォローの大切さ、声の質、アクティビティの意味、私の英語力などについてコメントをいただいて反省点も見つかり、自分の授業の良いところと悪いところを教えてもらえた。最後に生徒に書いてもらった感想文では、具体的に「この単語の説明が分かりやすかった」など最初のほうに教えたことでも覚えていてくれて嬉しかった。「楽しい授業だった」という感想ももらって、楽しいことは良いことだけれど楽しいだけでは学習にならないと感じていたので、楽しいと感じてもらいながら学習内容もしっかり身につけていけばいいなと思った。「3年以内に戻ってきてまた教えてください」という言葉をもらったときは、すごく嬉しかったし、もっと頑張ろうと思った。教育実習生として色々経験させてもらったが、担当の先生は私の教育実習期間中も小テスト作りや個人面談、お試し考査で点数が低かった生徒の補講などをしており、教師の仕事はたくさんあるということがわかった。そんな忙しい中、教育実習を受け入れて頂いて本当にありがたいと思った。また、職員会議や科会議は教職員同士の情報共有に大切だと感じた。職員会議で教員の方全員の前で挨拶したときはすごく緊張した。生徒の立場では知ることのなかった教員の仕事、学校の仕組みが分かり、とても充実した教育実習であった。